



高齢社会における「世代間・連帯」の住まい方 —世代間ホームシェアーの普及活動 NPO法人 リブ&リブ【首都圏全域】

設立年月

2012年4月(法人化)

メンバー数

15人

代表者名

石橋 鎌子(いしばし・ふさこ)

連絡先

電話 090-6301-1115 / FAX 03-3904-4533

Eメール info@liveandlive.org

ウェブサイト <http://liveandlive.org>

【団体のミッション】

私たちは、人と人をつなぎ世代をつなぎ、支え合う優しい社会の実現に向けて世代間ホームシェアを実施しています。増え続ける独居シニア宅に経済的に困難を抱える学生が同居し、お互いに支え合い、血縁を超えた絆をつくることを目的とした新しい取り組みです。

団体設立経緯

近年、独居高齢者が急増し、社会からの孤立化が問題となっています。高齢者の不安、孤独感、生きがいの低下などは、ひいては孤独死につながるものであり対策が必要です。

一方、大都市で勉強する地方出身の大学生の多くは経済的に非常に厳しい状態にあります。

これら2つの社会問題を重く見た私どもは、2つを同時に解決できる世代間交流ホームシェアに出会い、取り組むことにしました。全ての世代の人々が社会で役割を持ち、支え合い、夢や生きがいをもって暮らせる明るい社会の実現を目指し、これから血縁を超えた新しい絆づくりを目標に、2012年にNPO法人を設立しました。

地域概要

「世代間ホームシェア」を実施するに当たり、首都圏に住む元気な独り住まいのシニアと、親元を離れて首都圏の大学に通う学生を対象として取り組みを始めました。

大都会の家賃は非常に高額であり、地方出身の学生には大きな負担となっている一方、大都会の1人住まいのシニアの中には、社会から孤立しがちで不安な生活を送っている方がいらっしゃいます。大都会の中で、その両者がシニア宅で同居し、お互いに自分の持っているものを提供し支え合う。これは新しい住まい方であると同時に、新しい人間関係の構築に役立つものであります。

活動に至った理由や背景

代表の石橋鎌子が定年を迎えて見回したとき、高齢者の社会からの孤立化、老後の選択肢の無さを実感し、また、同時に地方から来て首都圏の大学に通う多くの若者が経済的に困難な状況にあるのを見ました。

かねて世代間交流に关心を持っていた代表は、具体的な解決策を求めて2008年に海外の

調査に出かけ、スペイン、フランスで成功している「世代間ホームシェア」に出会いました。実際に同居しているペア宅複数を訪れそれぞれの話を聞き生活を見るにつけ、この取り組みの素晴らしさを肌で感じ、超高齢社会の日本で必要なものと確信し、日本での普及に踏み出しました。

活動内容と成果

「世代間ホームシェア」では、今まで何のつながりもなかった人と人を結び付けるのに際し、慎重に事を運ぶ必要があります。最初は主に知人、紹介、口コミを中心に参加者を募って成功例を積み上げてきました。昨年は同時に3組のペアが誕生し、メディアでも多く取り上げられました。文化、習慣などの全く違う日本での普及には時間がかかるることは想定内でしたが、NPO設立から5年目に至り、今後の持続的・継続的な普及活動のためには新たな「広報活動」の強化が必要な時期に入ったと判断しました。

今回、財団のご理解をいただき以下3分野での強化に取り組みました。



代表の石橋鎌子

世代交流ホームシェア事業 NPO法人 リブ&リブ

お問い合わせ 文字サイズ：小 中 大

ともに生きる NPO法人 リブ&リブ 世代間交流ホームシェア

トップページ 活動内容 大学生の方へ シニアの方へ 申し込みの流れ よくある質問

お知らせ

2018/2/16 ブログ更新：「日本経済新聞掲載のお知らせ…」

2017/11/30 ブログ更新：「メディア掲載のお知らせ」

2017/8/22 ブログ更新：「メディア掲載（2017年6月～…」

2017/6/10 ブログ更新：「NHK-金曜イチから～あした…」

2017/5/1 ブログ更新：「異世代交流ランチ会 2017…」

2017/4/25 ブログ更新：「ホームシェアをスタートさ…」

お問い合わせ

リブ&リブ

新着情報

2018/2/16 ブログ更新：「日本経渷新聞掲載のお知らせ…」

2017/11/30 ブログ更新：「メディア掲載のお知らせ」

2017/8/22 ブログ更新：「メディア掲載（2017年6月～…」

2017/6/10 ブログ更新：「NHK-金曜イチから～あした…」

2017/5/1 ブログ更新：「異世代交流ランチ会 2017…」

2017/4/25 ブログ更新：「ホームシェアをスタートさ…」

お問い合わせ一覧へ

リブ&リブとは

このサイトはフリー版です。
広告を非表示にするにはプロ版にする必要があります。

こんなシニアの方々…

学生と暮らしてみませんか？

元気なひとり住まいのシニアの自宅に、親元を離れて勉強する大学生が同居。食事は基本的にそれぞれ自由。生活はそれぞれ自由に♪心は支え合って縁を超えた絆が生まれます！

一緒に、どうがんばる？

ひとりより、誰かと住んでみませんか？

安心以上の何がが！

シニアと学生をつなぐホームシェア

わたし、学生

東京で学べて幸せ！灯りがついている家に帰れて、ホッとすると…

わたし、学生

いつしょで安心、生活が豊かになれた！おねだりも減りました。

私、シニア

毎日が新しいってなんていいんだよ！

NPO法人 リブ&リブ

ホームページの充実と業務のIT化

広報活動の重点を学生向けとシニア向けに分け、若者向けの広報活動の中心となるホームページ(HP)の充実を強化しました。

HPのリニューアルに関しては、ボランティアの学生が中心となり検討した結果、現在は大々的な作り替えよりもできる範囲内で改良しようという結論に達し、小さい一步ですが設立当時に作られたホームページを「スマホ対応」のものに新しく移行することにしました。これにより、スマホで見る時も横にスクロールしながら縦にスクロールといった手間がなく自然に見られるようになり、同時に内容も何点か改善できるところを改善しました。

業務のIT化に関しても、将来参加者の数が増えたときに備え、いかにわかりやすく、また組織内での情報の共有ができるかを考慮して検討中です。これには完了といった段階ではなく、今後の傾向により随時改良増設していくように、数人の学生さんの参加で取り組んでいます。

これらの改良に伴い、問い合わせの数が日々増加しています。

見やすいパンフレット制作：高齢者に優しい紙媒体での広報活動の強化

HPを若者向け広報のツールとして強化する一方、シニア向け広報のツールとして紙媒体での広報活動の強化に重点を置くことになりました。世代間ホームシェア

の取り組みのメリットは多岐にわたり、参加者の動機も関心も色々と考えられる中、何をキャッチフレーズとして全面に出すかなどを検討しました。

過去において、夜や万



の時の安心のため、話し相手ができる社会からの孤立が防げる点、生きがいを感じる点、学生の役に立つ点などいろいろ強調しましたが、それぞれ考えるべき点がありました。

それ故、現在使用しているものは内容を詰め込み過ぎて字も小さくなっているので、今回、なるべく無駄なものを除外し、シニアが思わず手にしたくなるようなシンプルなデザインとイラストの使用を心掛けました。早速、小さい集まりで配り、区の市民交流センターのラックに置かせていただいています。

配布先の新しい試みとして、学生が主催するクラシック・コンサートのプログラムに広告を出稿しました。ターゲットを絞ったことで、結果的に有効な媒体となりました。

普及・啓発に向けたセミナーや交流会の開催

通常あまり接点のないシニア世代と若者が出会い、理解し合うための場として、リブ&リブでは交流会やランチ会を開催しています。助成

期間中にランチ会1回、交流会2回、セミナー1回を開催しました。

ランチ会ではすでにホームシェアに参加、実行しているシニアや学生に加え、これからホームシェアに参加してみたいと考えているシニアや学生さんにもお声をかけ、20人ぐらいの参加者が忌憚のない会話を楽しみました。

なかでも、福岡から上京した女子学生のコメントは参加者の心を打ちました。高い志を持っていても、地方から東京の大学に来ることはいかに経済的に困難なことか、もしこの取り組みが無かつたら自分は大学に行くことすらできなかつたと語り、参加者全員が改めてこの取り組みの意義を知ることができました。

あるシニアの方は、「ガス台のわきに“火を消すこと”と大きく貼っていながら、ある日、学生に火の消し忘れを見つけてもらい、有難かったですですね！」と、その時のひやりとした表情そのままに語ってくださいり、皆で一緒にほつとしました。

課題と解決方策

海外で成功しているこの取り組みを、文化、歴史、習慣などの違う日本で普及させるには、時間がかかることが予想されます。また、半世紀以上かかって3世代同居から現在の核家族の住まい方に移ってきた日本の現状に鑑み、新しい住まい方である「世代間ホームシェア」を一般に普及させるには、時間をかけて、1つひとつ丁寧に成功例を積み重ねて紹介していく事が大切であると考えます。

別のペアは、60才の年の差があるにもかかわらず、お互いに洋服を交換したそうです。学生は「じいちゃんの洋服」を学校に着て行き、友達にかっこいいと褒められたというエピソードを披露しています。

慣れるまでには少々戸惑うこともあります、学生さんが「出かける時うっかり電気とエアコンをつけっぱなしにして、シニアの方から雷が落ちました(笑)」、「遅くなることを連絡したメールがシニアのPCに届かず心配をかけたが、設定の違いだったことがわかり、それをきっかけにシニアのIT面で協力することができました」など話してくれました。

特に最初は直接伝えるにはお互いをよく知らないで、傷付けるといけないと戸惑うことがあります。そういう時こそ、NPOの出番です。ひと月1回のペースで、シニアと学生さんそれぞれ別々にヒアリングを実施しています。

参加者の皆さんには、もともとこの取り組みの主旨を理解し参加している方々ですので、お互いに同居を前向きに捉え、思いやりや心遣いで小さいことにはこだわらない同居生活を楽しんでくださっています。

当日のランチ会では、数年前に一緒に住んだ芸大の学生さんの伴奏で、テノールを今でも歌っていらっしゃるシニアが「オーソレミオ」を披露。ほのぼのとした雰囲気の中で世代の違う人たちが気持ちをひとつにして交流しました。このランチ会の一部はNHK・Eテレの「人生レシピ」の中で、リブ&リブの世代間ホームシェアの紹介と共に放映されました。

HPやパンフレットで知っていただき興味を持ってくださった方々が、実際に世代の違う人たちと交流し、血の通った時間を共有することは、ホームシェアを実施するに当たり非常に重要なことです。

また、代表は大学の授業をはじめ各種セミナーにも参加し、普及に努めています。

現在は、独居シニアの参加申し込みが学生の申し込み数に比べ、非常に少ない状態です。シニアの方は過去の3世代同居時代の負の人間関係などを背負い、躊躇している場合も少なくありません。大都会で血縁関係のない、しかも世代の違う学生に家を提供し一緒に生活をするには、それ相応の時間も必要だと思われます。

それだからこそ、他人と暮らすことへの積極的な意識改革・広報活動が必要になります。さらに成功実施例を積み重ね、今回強化した広報活動を利用して、多くの方に、この取り組みの良さを知っていただけるよう普及に努めたいと思います。

今後の予定

設立以来、世代間ホームシェアは多くの成功例を積み重ねてきましたが、まだ世間の認知度は低く、参加の意思を持っても実施まで最後の決心がつかないシニアの方が多いです。

重ねて多くの文化的・社会的な疎外要因が多く、1つずつ乗り越えなくてはいけない問題が存在します。時間をかけて、できれば行政や他のNPOとも協力しながら体験者と共にセミナーや交流会などを開き、一層の広報活動に力を注ぎたいと思います。良い成功例を示していけば、この取り組みは必ず普及し、次世代では欠かすことのできない住まい方の選択肢の1つとなることを確信しています。

